

廃棄物学会ニュース

Japan Society of Material Cycles and Waste Management

廃棄物学会は、2008 年 12 月 1 日から一般社団法人廃棄物資源循環学会となりました

No.110

廃棄物資源循環学会

平成21年度 一般社団法人廃棄物資源循環学会 社員総会開催案内

廃棄物資源循環学会誌第 20 巻第 1 号にて告示のとおり、平成 21 年度一般社団法人廃棄物資源循環学会社員総会を下記により開催いたします。

1 開催日時：平成 21 年 5 月 25 日(月)

総 会	14:00～14:50
学会各賞表彰式	15:00～15:10
学会賞受賞記念講演	15:15～15:45
学会創設 20 周年記念特別講演	16:00～17:00
学会創設 20 周年記念式典	17:10～17:45
祝 賀 会	18:00～20:00

2 開催場所：川崎市産業振興会館

総会は、学会の事業活動と運営について、会員各位にご審議いただく最も重要な会議です。

今回は、旧廃棄物学会と新学会の平成 20 年度事業報告と決算報告、及び平成 21 年度事業計画(案)と収支予算(案)について、ご審議をお願いします。

ご都合でどうしても参加できない正会員の方は、別途送付の総会資料に綴じ込んである委任状の提出をお願いいたします。(5 月 24 日必着)。定款第 34 条の規程により、総会の成立要件として、正会員の 4 分の 1 以上の出席が必要とされております。ご協力をお願い致します。

総会終了後には、平成 20 年度一般社団法人廃棄物資源循環学会賞表彰式、学会賞受賞記念講演、並びに学会創設 20 周年記念特別講演、学会創設 20 周年記念式典、祝賀会を開催しますので、併せてご参加をお願いいたします。

総会会場案内図



資源確保競争下での国際資源循環のあり方を考える

平成 21 年 3 月 31 日（火）に、学会主催シンポジウム「資源確保競争下での国際資源循環のあり方を考える」を、川崎市産業振興会館で開催した。参加者は約 60 名で、会場は満席となった。

まず基調講演として、石川雅紀氏（神戸大学教授）から「国際資源循環とわが国の課題」と題して、この問題のフレームワークと経済学的な観点からの問題整



理、今後の取り組むべき方向をわかりやすく講演していただいた。

パネル討論では寺園淳氏（国立環境研究所）が「E-waste と金属スクラップの越境移動と最近の状況」、岡部徹氏（東京大学生産技術研究所教授）が「レアメタルの現状とリサイクルについて」、中村繁夫氏（アドバンスト マテリアル ジャパン社長）が「レアメタル資源の需給見通しと市場動向」、梅田靖氏（大阪大学教授）が「持続可能な国際資源循環の成立条件」と題して、それぞれの立場から最新の情報に基づいて講演された。その後、石川氏を交えて、川本克也氏（国立環境研究所）のコーディネートで質疑、討論が行われた。

国際的な資源需要の拡大を前提に、再生資源の価格高騰、レアメタル資源の枯渇等にわが国はどう対処すべきかがシンポジウムの企画意図であった。結論だけを取り上げれば、「レアメタルは適切に管理すれば枯渇はしない。資源問題は経済の問題である」となるうか。非常に学際的で興味深いシンポジウムであった。

(企画運営委員会 山本耕平)

平成20年度市民フォーラム開催される

平成 21 年 3 月 14 日（土）10 時半より 16 時まで、名古屋大学において、支部市民フォーラムが開催された。市民フォーラムは毎年 3 月に開催される支部の定例行事で、今年のテーマは学会の名称に「資源循環」が加わったこともあり、「資源を大切に、エコ社会を目指す！」であった。大学及び企業の 4 名の講師が「ものを大切にする意識」、「ものを大切にするところ」、「食と命を大切にするところ」を基調にした講演を行った。

最初に山本芳弘氏（名古屋大学）から、「消費者の“ものを大切にする意識”」と題してアンケート結果を交えながら講演をいただいた。同じ大きさの●を2個並べ、それぞれの●の周りを大きさの異なる○で囲んだ場合、不思議にも●の大きさが異なって見えた。「私たちは身のまわりにあるものを常に他のものとの関係でとらえている」ことが知らされた。企業からは、高級食器メーカー（株）ノリタケの関連企業である（株）ノリタケボンデッドアブレーションの山口幸男氏と三州陶器瓦のメーカーである（株）神清の神谷昭範氏が講演された。お二人はそれぞれの企業製品である工業用砥石及び三州瓦の製造、再生及び資源利用に関する取り組みを概説した。最後に岡山朋子氏（名古屋大学）が、

食品廃棄物から堆肥をつくり、野菜を食卓へ戻す“おかえりやさい”について、自らの市民運動の実践を交えて話された。机上の論議だけで終わらせるのではなく、実生活に活かす取り組みが伝わってきた。その後、戸谷満副支部長のコーディネートで、4名の講師が加わった1時間にわたるパネルディスカッションが行われた。会場からも質問が活発に出され、有意義な1日を過ごすことが出来た。

(東海・北陸支部 鈴木憲司)



